COLUMN

アラビア語の横書きは右から左へ

漢字を使用する日本語は、元々縦書きである。横書きが登場したのは幕末になってからで、明治以降少しずつ横書きが増えて、今では新聞や書籍を除いてむしろ横書きの方が多くなった。それには、デジタル時代に合わせてパソコンやスマホが使用されるようになったことがかなり影響している。今では小中学校の教科書も国語以外はほとんど横書きになった。隣国の韓国語（ハングル）も今ではほとんど横書きとなり、漢字の母国である中国でさえ、新聞も縦書きから横書きになったほどである。

古来より日本伝統の縦書きでどうにも分からないのは、縦書きは行を終えたら次は左の行へ移し替えるのが一般的であるが、歴史年表ばかりは、そうではなく行を替えて右へ一行移行することである。歴史年表を全体的に見てみると文字自体は縦書きであるが、年表としては右へ流れていくことに、「天声人語」氏ですら一瞬縄文時代が左から始まる事実に、日本では古来時間は右から左へ流れるとの普遍的な認識からどうもしっくりこないようだ。

全ての日本語が縦書きから横書きになってしまうと、俳句や和歌のような日本古来の文化も異なものとなる。芭蕉の「閑さや 岩にしみ入る 蝉の声」の名句も横書きにしては江戸の風情が感じられないのではないだろうか。習字もそうだが、一番悩むのは、仏教界ではないだろうか。経典も横書きではピンとこないだろう。

一般的に外国語は、ほとんどが横書きである。但し、アラビア語のように横書きでありながら、文字自体は右から左へ綴り、他の言語とは本質的に異なることだ。初めてその事実を知った時は、そんな言語もあるのかと不思議な感じがした。かつてイランの古都イスファハンを訪れた時、アラビア語の看板の近くで、アラビア語が右から左へ綴る理由を街の人に尋ねたことがある。すると昔のアラビア人は石板にノミで彫って文字を書いていたので、どうしても右から左へという習慣になると教えてくれ、どうにか納得することができた。

日本語の母音数は５つで、他の言語に比べて少ないと言われるが、アラビア語はもっと少なく母音は僅か３つしかない。文章も「動詞＋主語＋目的語」と、英語や日本語、或いは他の言語とも全く異なる。また、部外者には簡単には書けない独特の文字である。アラビア語は難しい。

その難しいアラビア語を「カイロ大学を【首席で】卒業した？」小池百合子・東京都知事なら、骨の髄まで理解しているだろうか。

エッセイスト 近藤節夫